

シラバスデータ		
科目名	現代倫理	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	本学の建学の精神・校訓・教育方針を具現化するための授業。 倫理を基本とした全人教育としての本科目を履修することにより、 人間の尊厳と人権・福祉理念 を理解し、社会人としての心構え、グローバルな教養を身に付け、 自立した 有意な人材となることを目指す。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	社会におけるさまざまな規範の根拠について、 人間の尊厳と人権 を基礎とし、哲学の誕生から宗教の発展、 福祉理念 まで、幅広く現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ。さらに 自立の概念 を学び、自分自身の 自立 に関して考えることができる。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	この授業を学ぶことにより、倫理学の基本的な考え方を身につけ、人間の在り方、自己実現を果たすために自分が社会にどのような価値を与えられるかを考え、自己の自立や成長を実感できるようになることを目指す。
授業担当者	齋藤照安	
使用テキスト 参考文献	参考資料: 本学「学生の手引き」 CANジャーナル(本学機関誌)、「現代の倫理」(山川出版社)、「ディープな倫理」、「倫理 愛の構造」(東京大学出版会)、オリジナルプリント	
評価方法	前期・後期の試験結果、授業態度、出欠状況を加味した上で、学生の手引きに基づいて評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	倫理を学ぶ	授業の進め方、倫理とは、人間とは何か、 人間の尊厳と人権とは何か 。メラビアンの法則、国のかたち
2	全人教育	倫理を学ぶ意味、教育の質の変換
3	建学の精神	建学の精神、読書のすすめ、青春とは
4	青年期と自己の探求	青年期の意義、 自立の概念 自己の自立
5	グループワーク(1)	よりよい人生とは、将来のキャリアの設計
6	他者とともに生きる	情報ネットとコミュニケーション、友情と恋愛、人の絆
7	生命と自然との出会い	生きることの意味、生きがいの発見、自然への畏敬、命の神秘と価値、 福祉の理念
8	哲学の誕生	哲学とは何か、古代ギリシャの自然哲学、哲学の対象
9	ギリシャの思想	3大哲学者(プラトン・ソクラテス・アリストテレス)
10	グループワーク(2)	ルールは必要か
11	古代中国の思想(1)	諸子百家
12	古代中国の思想(2)	儒教の発展
13	傾聴(1)	(授業担当: 谷澤祥子先生)
14	前期のまとめ	儒学年表

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	前期試験	全人教育、メラビアンの法則、古代ギリシャの哲学者、青年期と自己の課題、中国の思想家
16	宗教とは何か(1)	宗教改革と信仰の心、エラスムス、トマス・モア、ルター、カルヴァン、イグナティウス・ロヨラ
17	宗教とは何か(2)	キリスト教とその教の発展
18	宗教とは何か(3)	イスラム教
19	宗教とは何か(4)	仏教とその発展
20	宗教とは何か(5)	世界の中の日本人
21	宗教とは何か(6)	平安時代の仏教(遣唐使・遣隋使)、鎌倉時代(朱子学、吉田兼好)
22	宗教とは何か(7)	江戸時代の儒教
23	傾聴(2)	(授業担当: 谷澤祥子先生)
24	日本人の歩んだ道	戦争と平和、第二次世界大戦後の日本の思想(石橋湛山、湯川秀樹、大江健三郎)、日本の文化・社会論(小林秀雄、森有礼)
25	グループワーク(3)	自律と自律
26	家族と地域社会	現代の家族像、家族の絆
27	家族と地域社会	男女共同参画社会、少子高齢化、地域社会に生きる
28	世界の文化と宗教	ルネサンス文化と人間の尊厳、モラリストの人間関係
29	国際平和と人類の福祉	ユネスコ憲章の標語
30	後期のまとめ	後期試験

シラバスデータ		
科目名	相談援助の基盤と専門職 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	相談援助の理論を基盤とした 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎 を学び、対人援助職の基礎的学習を行う。同時に介護の基本である多職種連携の重要性のもと、それぞれの役割と機能を考える。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	この授業は、介護福祉士養成課程の『人間と社会』の領域の「人間関係とコミュニケーション」の内容を行うものとする。演習を中心とした活動授業を行い、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的としている。グループディスカッションや体験学習を主とするため、自分を表現し、積極的にいろいろな人と関わるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	① 人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解 し、実習等で振り返りながら実践で活用できるようになる。 ②自己覚知や他者理解等を通して、自分や他人に対しての理解が深まる。 ③ コミュニケーション技術の活用 により、介護現場で協働する関係者との適切な情報共有、共通理解のための方法について理解し、実践することができる。
授業担当者	井川真世	
使用テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術(中央法規) ・最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解(中央法規) 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率 ・授業態度(グループワーク時も含む) ・提出物(課題)評価 ・試験(小テストを含む) 	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	対人援助とは	グループワークのルール 絵とき自己紹介 マズローの基本的欲求階層説とコミュニケーション
2	伝えるということ	伝達トレーニング 伝えるために必要なこと、大切なこと
3	コミュニケーションとは？	コミュニケーションの基本構造 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 積極的ティーチング法
4	コミュニケーションの基本技術	認知症ケアから学ぶ コミュニケーションの基本 『ユマニチュード』
5		認知症ケアから学ぶ コミュニケーションの基本 『バリデーション』
6		傾聴、受容、共感 コミュニケーションの基本テクニックを磨く
7	自分と他者の理解	自分を理解する 他者を理解する
8	対人認知と対人感情	認知とは 対人認知の傾向
9	自己覚知	エゴグラム 自己開示 自分取扱説明書
10	集団における人間関係	集団とは 集団力学
11	対人援助技術	ジェノグラム
12		エコマップ
13	援助的人間関係の形成	バイステックの7つの原則 求められるコミュニケーション力
14	組織におけるコミュニケーション	情報収集しながら課題達成に向けて全員で協力する グループワーク

15	相談援助技術	相談援助の実践、まとめ
----	--------	-------------

シラバスデータ		
科目名	チームマネジメント	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護実践は、介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、チームで働く力を養うためのコミュニケーションや チームマネジメントの基礎的な力 を身につけることを目指します。
学年	1	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	この授業では、現場で起こりうる課題を題材にした事例を活用し、ケースメソッドによる学習を通して業務課題の発見や、リーダー・フォロワーの役割について疑似的に考える内容となります。
授業回数	15	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2	① 福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる。 ② チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。 ③ チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。
授業担当者	川崎誠之	
使用テキスト 参考文献	人間関係とコミュニケーション	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	介護サービスの特性と求められるマネジメント
2	チームマネジメントの基本	チームマネジメントの基本
3	ケアを展開するために必要なチーム	ケアを展開するために必要なチーム
4	実践力を高めるためのチームマネジメント	実践力を高めるためのチームマネジメント
5	チームワークに必要なリーダーとフォロワー	チームワークに必要なリーダーとフォロワー
6	介護職としてのキャリアデザイン	介護職としてのキャリアデザイン
7	キャリア開発のしくみ	キャリア開発のしくみ
8	キャリア開発と自己研鑽	キャリア開発と自己研鑽
9	福祉サービスと事業所組織	福祉サービスと事業所組織
10	事業所組織の機能と役割①	事業所組織の機能と役割①
11	事業所組織の機能と役割②	事業所組織の機能と役割②
12	事業所組織の経営	事業所組織の経営
13	地域におけるチームマネジメント	地域におけるチームマネジメント
14	業務課題の発見と解決の方法①	業務課題の発見と解決の方法①
15	業務課題の発見と解決の方法② 試験	業務課題の発見と解決の方法② 試験

シラバスデータ		
科目名	社会福祉概論	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	社会福祉全般にわたる概念や価値について学び、他の各論との接点を見出す。同時に実践場面において、それらの概念や価値がどのように生かされるのかについて学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	①福祉・介護分野の基本である 人権や尊厳、自立の概念 を理解する。 ②今日の「社会福祉」に至る歴史を学び、 社会と生活のしくみ について理解する。 ③ 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 についての理解を深める。 ④ 社会保障制度 について学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	①「社会福祉とは何か」について、基本理念や考え方を他者に説明できる。 ②我が国の社会福祉発展の歴史を理解したうえで、現代の福祉課題についても考えることができる。 ③人間理解によって専門職の目指す支援のあり方をつかむことができる。 ④社会福祉の法律や制度の概要を理解し、多種協働の実践を学ぶ。
授業担当者	井川真世	
使用テキスト 参考文献	・最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解(中央法規) ・最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解(中央法規)	
評価方法	・出席率 ・授業態度 ・提出物(課題)評価 ・試験(小テストを含む)	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	現代社会と 社会福祉	福祉って何だろう 社会と生活のしくみ
2		社会福祉とは 自分の周りの福祉について考える
3		社会福祉の定義・理念 社会福祉の5つの柱
4	人権の尊厳の 基本理念	人権とは 人権の歴史
5		人権運動の歴史 人権侵害
6	社会福祉の歩み	諸外国における社会福祉の歩み
7		日本における社会福祉の歩み①
8		日本における社会福祉の歩み②
9	社会のしくみ	現行の社会福祉制度 社会保障制度とは
10	権利擁護と アドボカシー	虐待とは 虐待防止
11		権利擁護 身体拘束
12	家族	個人 ライフステージ
13		家族の機能と役割 世帯
14	社会福祉のしくみ	法と行政

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	社会福祉のしくみ	前期授業のまとめ(期末試験)
16	地域福祉	地域福祉とは
17		地域共生社会
18		地域包括ケアシステム
19	社会福祉サービスの概観	児童、障害者
20		高齢者
21		生活保護
22	権利擁護とアドボカシー	成年後見制度
23		日常生活支援事業
24	介護実践に関連する諸制度	個人の権利を守る制度・施策 保健医療に関する制度・施策
25		貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 地域生活を支援する制度・施策
26	これからの社会福祉	近年の社会福祉
27		社会福祉の担い手
28		専門職のアイデンティティを考える
29	社会福祉概論 まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る
30		期末テスト

シラバスデータ		
科目名	老人福祉論 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	少子・高齢化の現状、要介護高齢者と家族の現状等の 高齢者福祉 を学び、それを支える法制度として、 介護保険制度 について学ぶ。同時に、福祉・介護の仕事の基盤となる法制度について学ぶ。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	国内外の具体的な少子・高齢化の現状をデータなどから理解し、介護保険の目的・ねらいと具体的な制度内容を理解していく。各分野の共通した課題である少子高齢化に対する認識を深め、福祉・介護職が活躍する主な分野である高齢者福祉の基盤となる介護保険に対する理解を深める。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①高齢者保健福祉における施策の動向、社会的背景等を理解し、高齢者ケアの課題と方策を考えることができる。 ②介護保険制度の目的や仕組みを理解し、説明することができる。 ③自らが活躍する福祉・介護の現場の現状と課題を根拠を持って説明できる。
授業担当者	井川真世	
使用テキスト 参考文献	・最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解(中央法規) ・各市で配布している介護保険制度等のパンフレット	
評価方法	・出席率 ・授業態度(グループワーク時も含む) ・提出物(課題)評価 ・試験(小テストを含む)	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	「老い」とは？
2	少子高齢化	自分の老いを考える 少子高齢化ってどんなこと？
3	高齢者を取り巻く 現状	高齢者の特性
4		高齢者を取り巻く福祉問題
5	高齢者保健福祉	高齢者保健福祉の動向
6		高齢者の支援の関係法規
7	介護保険制度	介護保険制度の全体像 (目的、理念、保険財政、保険者と被保険者)
8		介護保険サービスの仕組み 要介護認定の仕組み サービス利用の流れ
9		介護保険サービスの体系(1) 介護保険サービスにおける専門職の役割
10		介護保険サービスの体系(2) 居宅サービス、施設サービス、介護予防サービス
11		介護保険サービスの体系(3) 地域支援事業、介護保険制度における組織・団体の役割
12		介護保険の動向
13	高齢者支援	高齢者を支援する組織と役割、専門職
14		ロールプレイング

15	まとめ	授業全体を振り返り、試験の内容と方法、評価方法について説明する。
----	-----	----------------------------------

シラバスデータ		
科目名	障害者福祉論 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	障害者と自立観、障害者の実態等の 障害者福祉 と、それらを支える法制度として 障害者保健福祉制度 について学ぶ。同時に、障害者政策をめぐる国際動向と、障害者権利条約について学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	障害者と自立観といった概念の学習ではグループワークによる意見交換を重視し、障害者総合支援法や障害者権利条約といった法制度の学習では、座学を重視する。これらの切り替えを効率的に行うため、授業中の小休止を適宜取り入れる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	社会的差別に晒され易い障害に対する客観的かつ深い認識を持った福祉・介護職として利用者への支援を行うとともに、その支援の背景にある障害者福祉関係の法制度の概要を理解する。
授業担当者	石田麗	
使用テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座②『社会の理解』 適宜資料配布	
評価方法	出席率 授業態度 課題 試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 障害者福祉の視点	シラバスを配布し授業概要を説明するとともに、受講上の留意点を周知徹底する。 現代社会と障害者について人権、家族、地域社会とのつながり。
2	障害概念と特性	各法律による障害の定義／障害者の特性と支援内容／障害者手帳
3		
4	障害者福祉の理念	ノーマライゼーション・リハビリテーションから多様性と共生
5		
6	障害者の歴史	障害者権利条約と障害者基本法
7		
8	障害者に対する 法制度	法制度の全体像／身体・知的障害者福祉法・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律／児童福祉法／発達障害者支援法／障害者総合支援法／障害者虐待防止法／障害者差別解消法／バリアフリー法／障害者雇用促進法
9		
10		
11		
12		
13		
14		

シラバスデータ		
科目名	介護概論 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護福祉の基本となる理念、介護の目的、機能、範囲を理解し、専門職業としての介護を理解する。また、介護実践に関連する諸制度を学び、利用者の尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護サービスを理解する。さらに、介護福祉の倫理とはを学び、介護福祉士の役割と機能を理解する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、ノーマライゼーション、ICF、介護の倫理等から介護実践の基本姿勢について理解する。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活を営める生活環境を整えることが可能になり、危機管理、関係職種間の連携の在り方等が理解できるようになる。
授業担当者	山田 英介	
使用テキスト 参考文献	中央法規 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I	
評価方法	出席率 授業態度 課題 試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護福祉士になるためには	「3領域」+「4医療的ケア」の説明
2	介護福祉士倫理綱領	介護福祉の理念と倫理。日本介護福祉士会が定める倫理綱領
3	普遍的倫理判断	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
4	介護福祉士の機能	介護福祉士の「3つの機能」
5		介護福祉士業務の専門性の条件
6		介護の歴史と介護問題の背景
7		介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
8	介護福祉の基本理念	尊厳を支える介護
9		自立に向けた介護
10	グループワーク	社会の中で活躍していたり、社会参加・活動をしている
11		高齢者や障害のある人の生活場面の例を挙げ、自立とは
12		何かについて話し合いを行う。
13	自立に向けた介護福祉のあり方	介護の視点とリハビリテーション
14		介護を必要とする人の理解

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15		障害のある人の暮らしの理解
16	自立に向けた介護福祉のあり方	介護を必要とする人の生活環境
17	介護保険法とは	介護サービス(ケアマネジメント)
18		介護サービス(サービス提供の場)
19	介護福祉士の役割	介護実践における連携
20		介護事業者の倫理
21		安全の確保とリスクマネジメント
22		リスクの対策の実際
23		介護従事者の安全確保
24	グループワーク	・多職種との連携関係図の作成。要介護者がいる家族に説明するシナリオを作成。
25		
26		・実際にロールプレイを行い、観察者が評価する。
27		
28	社会資源の理解	・社会資源とは何かを学ぶ
29		・社会資源の開発についてのグループワーク
30		カード整理法を用いて社会資源をグループで見つけ出し発表する。

シラバスデータ		
科目名	介護概論Ⅱ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	1. 介護の目的、機能、範囲を理解し専門職業として 介護を必要とする人の理解 をする。2. 人間の発達と生活についての知識を持ち、 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ について学ぶ。3. 身体・精神の健康状態の変化に介護福祉士として対処できる能力を養い、同時に保健医療関係者および連携、協力の在り方について学ぶ。4. 病気や遭遇しやすい事故の知識を持ち、介護福祉士として対処しうる予防方法について学ぶ。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、介護従事者の倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全など専門職業としての概念をもとに尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、介護実践における連携などの理解を徹視的に深める。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	1 介護に関する知識と技術への理解を深める 2 介護福祉士としての役割、責任を認識し、自身の介護観を確立できる 3 介護福祉サービスの提供方法、多職種連携手段を判断できる
授業担当者	山田 英介	
使用テキスト 参考文献	介護の基本	
評価方法	受験資格:出席率80%以上 評価方法:定期試験 60点以上合格 59点以下不合格	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護福祉士の役割と機能、介護福祉の倫理	
2	高齢者のくらしの実際	加齢による心理的变化・精神的变化、活動性の低下
3	高齢者のくらしの実際	虚弱高齢者、健康管理
4	高齢者のくらしの実際	寝たきり高齢者・要因・合併症・介護
5	高齢者のくらしの実際	認知症高齢者の症状・コミュニケーション方法
6	高齢者のくらしの実際	認知症高齢者の不適応行動・精神症状・対応
7	障害のある人のくらしの理解	肢体不自由(運動機能障害)の医学的理解、生活
8	障害のある人のくらしの理解	脳性麻痺、関節リウマチ
9	障害のある人のくらしの理解	脊髄損傷、脳卒中
10	障害のある人のくらしの理解	高次脳機能障害、筋ジストロフィー
11	障害のある人のくらしの理解	筋萎縮側索硬化症、パーキンソン
12	障害のある人のくらしの理解	視覚障害の医学的理解、生活、介護
13	障害のある人のくらしの理解	聴覚障害の医学的理解、生活、介護
14	障害のある人のくらしの理解	心臓機能障害の医学的理解、生活、介護

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	障害のある人のくらしの理解	腎臓機能障害の医学的理解、生活、介護
16	障害のある人のくらしの理解	呼吸機能障害の医学的理解、生活、介護
17	障害のある人のくらしの理解	膀胱・直腸機能障害の医学的理解、生活、介護
18	障害のある人のくらしの理解	膀胱・直腸機能障害の医学的理解、生活、介護
19	障害のある人のくらしの理解	知的障害の医学的理解、生活、介護
20	障害のある人のくらしの理解	知的障害の医学的理解、生活、介護
21	障害のある人のくらしの理解	知的障害の医学的理解、生活、介護
22	障害のある人のくらしの理解	精神障害の医学的理解、生活、介護
23	障害のある人のくらしの理解	精神障害の医学的理解、生活、介護
24	障害のある人のくらしの理解	重複障害の基本的理解、生活、介護
25	高齢者・障害者の生活経営と管理	厚生年金・高齢者医療制度・介護保険法
26	高齢者・障害者の生活経営と管理	厚生年金・高齢者医療制度・介護保険法
27	高齢者・障害者の生活経営と管理	障害者年金・障害者医療制度・障害者自立支援法
28	保健医療者との連携	保健医療者との連携の仕組み
29	地域連携	地域連携の意義、地域包括支援センター・ボランティアの役割
30	地域連携	市町村・都道府県の機能と役割

シラバスデータ		
科目名	チームケア論	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	協働する多職種役割と機能を学ぶ。 介護における安全の確保とリスクマネジメントを学ぶ。 介護従事者の安全を考える。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	1年次後期	ケアマネジメント、ケアプラン、ケースカンファレンスの意義、方法を学ぶ。事例をもとにケアプラン、ケースカンファレンス、ヒヤリハットをグループ学習から学ぶ。ケアマネジメント及び、ケアプランの流れと仕組みを通し、生活の場の特性や地域連携の在り方についての理解を深めるようになる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	チームとして利用者や集団のニーズを捉え介護方向を見出せる。ケアマネジメントの理解ができ、ケアプランと介護計画の関係性が理解できる。そのうえでの多職種連携の実践に利用者の生活を持続させる視点を養う。
授業担当者	隈本 つばさ	
使用テキスト 参考文献	適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	多職種の種類と機能と役割の把握と理解	多職種連携・協働についての講義(多職種連携・協働とは。多職種連携・協働を要請する社会の動き等)
2	保健・医療・福祉職の機能と役割	連携の主となる社会福祉関係職種・医療関係職種の理解。
3	保健・医療・福祉職の機能と役割	前回の授業で社会福祉関係職種・医療関係職種を理解したうえでの事例を個人で行う。
4	演習(グループワーク)	前回の事例をもとにグループワーク。
5	演習(グループワーク)	事例に基づきグループワーク続き。
6	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	保健・医療・福祉職の役割・機能を理解したうえで、多様な視点と受容を必要とする協働を学ぶ。
7	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。。
8	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。。
9	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。。
10	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。
11	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。総まとめ講義。
12	リスクマネジメント	介護における安全の確保とリスクマネジメントを学ぶ。
13	介護従事者の安全を考える。	介護従事者の安全を考える。
14	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。

15	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。総まとめ講義。
----	----------	-----------------------------

シラバスデータ		
科目名	リハビリテーション論	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	1. リハビリテーション、ノーマライゼーションの意義について理解する 2. 障がいの種別によるリハビリテーションの展開を理解する 3. 病院・施設・在宅リハビリテーション役割と連携について理解する
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	1. リハビリテーションにおける尊厳を支える介護の考え方、自立に向けた介護展開方法を学ぶ 2. 福祉用具の意義と活用 。実際のリハビリテーションにて使用する福祉用具を呈示し、支援方法を深める
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	1. 身体の各部位の構造が理解でき、適切なリハビリテーション方法が判断できる 2. リハビリテーションの制度について社会・地域との関わりを理解できる 3. 社会的自立に向けてのリハビリテーションのあり方を考察できる
授業担当者	荒木 絢子	
使用テキスト 参考文献	リハビリテーション論	
評価方法	受験資格:出席率80%以上 評価方法:定期試験 60点以上合格 59点以下不合格	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	リハビリテーションの理念と歴史の変遷	リハビリテーションの歴史や、根本的な意味、目的、考え方を学ぶ
2	ICDHとICF	ICDHとICFの歴史と、ICFの考え方を学ぶ
3	リハビリテーション領域とサービス	各職種によるリハビリテーションの領域を学ぶ
4	高齢化による機能障害とリハビリテーション	高齢による身体的・精神的変化とそれぞれの対応について
5	高齢化による機能障害とリハビリテーション	高齢による身体的・精神的変化とそれぞれの対応について
6	身体障がいによる機能障害とリハビリテーション	身体障害の分類や、身体の機能的変化、それぞれに対するリハビリテーションアプローチについて
7	身体障がいによる機能障害とリハビリテーション	身体障害の分類や、身体の機能的変化、それぞれに対するリハビリテーションアプローチについて
8	知的障がいとリハビリテーション	知的障害者に対するリハビリテーションアプローチ
9	精神障がいとリハビリテーション	精神障害者に対するリハビリテーションアプローチ
10	リハビリテーション介護と介護技術の基本	介護に対するリハビリテーションの視点とそれに対するアプローチ方法
11	福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり	福祉用具、住宅改修、まちづくりに対する考え方を学ぶ
12	地域リハビリテーション	暮らしやすさのための環境について学ぶ
13	リハビリテーションの立案・指導・チームアプローチ	リハビリテーションアプローチまでのプロセスを学ぶ
14	ICFの視点に基づいた利用者へのアセスメント	ICFを用いた実際のアセスメントについて学ぶ

15	事例に基づく自立支援と 社会生活能力の維持・拡大 に向けての援助	リハビリテーションアプローチの実際
----	--	-------------------

シラバスデータ		
科目名	形態別コミュニケーション	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護を必要とする人とのコミュニケーションを実践的に学ぶ。人間関係の形成・障害への支援的対応・情報授受や保管に関する文書記録の技術等、 障害の特性に応じたコミュニケーション 技術の必要性を学び、習得する。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	基本的なコミュニケーション方法を理解する。(手話・点字・実践演習) 利用者・家族に応じたコミュニケーション・態度を学ぶ。
授業回数	30回	介護におけるチームのコミュニケーションを学び、情報の共有化活用方法を理解する。 (1～10:手話 11～20:点字 21～30:実践演習)
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	介護従事者としての言葉と対応を意識し、実践できるようになる。
授業担当者	塚田祥子(手話)、並原昭雄(点字)、山田英介(実践演習)	利用者・家族との信頼関係を築くことができる。 情報に応じた適切な共有方法を判断できる。
使用テキスト 参考文献	コミュニケーション技術(中央法規)	
評価方法	・出欠状況 ・試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	挨拶表現	聴覚障害とは、手話の基礎・コミュニケーション手段
2	聞こえるとは	耳の構造、役割、手話による自己紹介
3	数字・時間の表現	聴覚障害者の生活・心理について
4	疑問の表現	聴力レベル・補聴器、手話による疑問表現基礎
5	可能・否定	手話を活用した可能・否定の表現方法基礎
6	手話表現留意点	ろうあ教育、接続に関する手話の基礎、手話表現留意事項
7	労働問題	聴覚障害の方の労働環境、労働問題
8	ろうあ協会	聴覚障害の方とのコミュニケーション、ろうあ協会について
9	重複障害について	重複障害者が抱える問題とは、指文字基礎。
10	手話通訳の資格	手話表現の留意点、手話通訳の資格制度、聴覚障害者の願い
11	視覚障害とは	視覚構造と原因、重複障害について
12	点字について	視覚障害者の歴史、点字の歴史、点字の意義
13	点字器使用方法	点字器の使用法、点字の打ち方・読解(50音表)
14	点字の打ち方	数字・アルファベットの打ち方。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	点字の読解	名刺・童謡を活用した読解方法
16	視覚障害疑似体験	アイマスク体験
17	視覚代行と福祉用具	点字を使った住宅配置図、福祉用具の使用方法
18	外国語の読解	日本語以外の英単語等を点字に当てはめ、理解する
19	点字を使った手紙の書き方	点字郵便の取り扱い方法、点字を使って文章・報告書を書く
20	日常生活留意点	視覚障害者の日常生活に焦点を当て、留意点について学ぶ
21	自己開示 自己覚知	ジョハリの窓、バイステックの原則により受容・共感・傾聴の理解
22	挨拶 身だしなみ 音声表現	尊敬語・発音・発声練習・クッション言葉について学ぶ
23	コミュニケーション 事例	介護施設で実際に起こり得る事例を基に、対応方法をグループワークにて検討。
24	事例について ロールプレイング①	事例や、今までの卒業生が実際に遭遇した場面を基に、適切・不適切な対応をロールプレイして学ぶ。
25	事例について ロールプレイング②	事例や、今までの卒業生が実際に遭遇した場面を基に、適切・不適切な対応をロールプレイして学ぶ。
26	記録の種類と方法	専門用語の確認、説明、常用漢字を改めて理解する。
27	記録の保存と整理	報告・連絡・相談(ほう・れん・そう)の重要性と確認、IT活用にて文章作成
28	インシデント アクシデントについて	「ヒヤリハット」について理解を深め、インシデント・アクシデントレポートの記録方法を学ぶ
29	ケアカンファレンス について	カンファレンスの重要性・意義・目的について
30	苦情対応について	苦情に対する対応方法、電話対応での基本事項を学ぶ。

総合福祉学科		
科目名	生活支援技術(概論)	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身に付ける。 生活支援の基礎を理解 する。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	利用者の生活を考え、生活支援のあり方を学ぶ。基本てきな介護技術に必要な知識を、その他の科目と結びつけながら学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	基本的な介護技術の理解。個別ケアの必要性を理解する。
授業担当者	隈本 つばさ	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術 I・II (中央法規・メジカルフレンド)	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	生活を理解する	自分の「生活」についての理解。その後、利用者の「生活」についての理解を深める。
3	生活支援の基本的な考え方	介護者として、利用者の「生活」支援を行うための視点、自立支援の考え方の理解を深める。
4	生活支援の基本的な考え方	介護者として、利用者の「生活」支援を行うための視点、自立支援の考え方の理解を深める。
5	他職種の役割と協働	多職種連携に必要な知識。他職種の専門性、役割の理解。(チームケア論復習)
6	他職種の役割と協働	多職種連携に必要な知識。他職種の専門性、役割の理解。(チームケア論復習)
7	他職種の役割と協働発表	多職種連携に必要な知識。他職種の専門性、役割の理解した上で、事例に対しての生活支援を発表。
8	ベッドメイキングについて	居室環境について・ベッドメイキングの技術の講義。
9	移動介助について	福祉用具・移動介助方法の講義。
10	移乗介助について	ボディメカニズムについて。移乗介助方法の講義。
11	着脱介助について	被服の繊維の講義。着脱介助方法の講義。
12	口腔ケアについて	身だしなみについての講義。口腔ケア方法の講義。
13	まとめレポート	課題をまとめ、レポートを提出。
14	まとめレポート	課題をまとめ、レポートを提出。

15	試験	後期試験(90分)
----	----	-----------

総合福祉学科		
科目名	生活支援技術(住居)	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	生活者の自立に向けた、快適で安全な住環境の整備に必要な知識と技術を身につける。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	自立に向けた、快適で安全な住居のあり方と、それを実現する技術と方法。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	自立に向けた住環境の整備を理解し、実現できる。
授業担当者	外山 知徳	
使用テキスト 参考文献		
評価方法	出席状況、授業中に実施する課題の成績、テストの成績を基に評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	住生活を構成するカテゴリーと生活者の自立	住まいと役割について学ぶ
2	住環境をめぐる今日の諸問題	現代社会と求められる住環境について
3	環境共生住宅-省エネルギーと省資源	住要求の変化について
4	快適な室内環境と健康-明るさの測定	快適な室内環境を整備するための基本的事項をおさえる
5	住まいの安全-耐震構造・免震構造・制震構造	日常安全・災害に対する備えについて
6	地震防災-過去の地震に学ぶ	自然災害に対する予防と安全な避難について学ぶ
7	静岡県地震防災センターの見学	静岡県地震防災センターの見学
8	人間関係を含んだ生活空間-居場所づくりとアイデンティティ	家族と生活空間について
9	テリトリー形成能力	パーソナルスペース(個人空間)について
10	バリアフリーのチェックポイント	日本家屋の問題とバリアフリー
11	住み分けと住宅改修	介護保険制度で利用できる住宅改修・福祉用具
12	福祉のまちづくり:移動の介護とバリアフリー	地域包括ケアシステムについて
13	集住の諸形態	現代の集住の諸形態について
14	個室とユニットケア	プライベートスペース、パブリックスペースについて

15	テスト	後期試験の実施
----	-----	---------

科目名	生活支援技術(被服)	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	すべての人が快適な衣生活を営むにはどうしたらよいかを学び、自立に向けた身支度の介護に繋げる。
学年	2年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	衣服の機能・素材の種類・素材の性能・購入・手入れの仕方・環境・資源に至るまで広い範囲で学習する。手芸作品を製作する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	衣服を着ているのは人間だけでなく、人間を特徴づけている文化の一つでもある。よりよい衣生活創造とはどういうことかを理解する。
授業担当者	伊藤 知圭子	
使用テキスト 参考文献	中央法規 介護福祉士国試ナビ	
評価方法	授業態度・出席状況・作品提出状況・レポートを総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 被服の役割	被服の役割を考える
2	被服素材の種類と性能	被服はどのような素材なからできているのか、理解する
3	繊維の種類と特徴	被服の表示を調べ、品質を理解する
4	手縫いの基本	手縫いの基本を学ぶ
5	手縫い演習	エコバッグ製作を通して、手縫い、ボタン付け、スナップ付け、面ファスナー付け、ゴム通しを体験し学ぶ
6		
7	手縫い演習	
8		
9	和服の基礎知識	和服の基礎知識を学び、理解する
10	和服の実際	浴衣を使用し、和服のたたみ方、着付けを体験する
11	レクリエーションを兼ねた手芸	介護現場で実際に使用されるお手玉を製作する
12		
13	被服の手入れ	汚れの落ちる仕組みを理解し、洗濯、染み抜き、漂白の方法を学ぶ
14	被服の手入れ	被服の仕上げ、保管方法を理解し、アイロンがけを体験する
15	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

科目名	生活支援技術(調理)	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	高齢者の状況、及び介護士自身にあった栄養と調理について専門的知識・技術を身につけ、利用者の身体と心の健康づくりに役立て、潤いある充実した食生活を創造できる力を育む。自立に向けた家事の介護を学ぶ。
学年	2年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	高齢者の状況、及び介護士自身にあった栄養と調理について理解し、「食」が楽しみや満足感など、利用者の生活に潤いを与える自立に向けた家事と生活支援者としての重要性を学ぶ
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	食文化や食生活の変化をはじめ、介護士が職の支援をするうえで必要知識を養う
授業担当者	伊藤 知圭子	
使用テキスト 参考文献	中央法規 介護福祉士国試ナビ	
評価方法	授業態度・出席状況・作品提出状況・レポートを総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 食事の意義と目的	食生活の意義と栄養についての基礎知識の確認
2	栄養の理解	5大栄養素を理解する
3	献立の立て方	食事バランスガイドを活用し、献立作成の手順を学ぶ
4	調理の基礎知識	調理実習に向け、調理に関する基礎知識を確認する
5	調理実習	様々な調理器具、加熱器具を扱うことで、決められた時間内に調理をする工夫を身につける 電子レンジを活用した調理を経験する
6		
7	高齢者の食事 と調理実習	高齢者の食に関する身体的特徴と支援のあり方を学び、 食品・調理形態・味付けによる高齢者への配慮を理解し、調理実習を通して身につける
8		
9	調理実習	バッククッキングを活用し、災害時等多様な調理の工夫を身につける
10		
11	食生活に関する施策 食中毒の防止	健康を守るための取り組みを学び、食品を安全においしく食べる知識を身につける
12	楽しい食事の演出	おいしい食べ物をよりおいしく食べるために、食空間を演出する工夫を学ぶ
13	調理実習	高齢者へ配慮した、食品・調理形態・味付けで調理する工夫を、 献立を作成し、調理実習を通して身につける
14		
15	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		
科目名	生活支援技術 I (介護)	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。 自立に向けた移動の介護・自立に向けた食事の介護・自立に向けた入浴・清潔保持の介護・自立に向けた排泄の介護・休息、睡眠の介護・人生の最終段階における介護 を学ぶ。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	生活支援技術 I (概論)とつながりを持ち、実際に介護実習室で安心・安全な介助ができるようになるための実技を行う。
授業回数	30回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	基本的な介護技術の理解。安心・安全な介助ができる。個別ケアの必要性を理解する。
授業担当者	隈本 つばさ	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術 I・II、適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	ベッドメイキング	居室整備・ベッドメイキングの実技。
3	ベッドメイキング	ベッドメイキングの実技。
4	ベッドメイキング	ベッドメイキングの実技。
5	ベッドメイキング試験	ベッドメイキングの実習を終えて、実技試験。
6	自立に向けた移動の介護	体位変換介助実技。
7		体位変換介助実技。
8		移動介助実技。
9		移動介助実技。
10	自立に向けた食事の介護	食事介助の実技。
11		食事介助の実技。
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	着脱介助実技。
13		着脱介助実技。
14		清潔保持の介助

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15		清潔保持の介助
16	自立に向けた排泄の介護	排泄介助の介助
17		排泄介助の介助
18		排泄介助の介助
19	休息、睡眠の介護	休息、睡眠の介護
20		休息、睡眠の介護
21	人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護
22		人生の最終段階における介護
23	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
24	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
25	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
26	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
27	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
28	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
29	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。
30	技術練習	各グループでテーマを決めて練習する。

シラバスデータ		
科目名	生活支援技術Ⅱ(介護)	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。自立に向けた移動の介護・自立に向けた食事の介護・自立に向けた入浴・清潔保持の介護・自立に向けた排泄の介護・休息、睡眠の介護・人生の最終段階における介護を学ぶ。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	各領域の知識をつかひ(介護過程ⅠⅡに基づき)、利用者1人ひとりにあった介護技術を考え、実践につなげる。
授業回数	15回	
授業形態	実習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	ICFの概念に基づいたアセスメントを行うことで個々の生活活動の違いや、気づいた変化を基に、系統的に捉え支援できるようになる。根拠ある技術を理解する。
授業担当者	隈本 つばさ	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ(中央法規・メジカルフレンド)、適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	基本的介護技術の復習(個別演習)	各介護技術をグループごと復習する。
3	基本的介護技術の復習(個別演習)	各介護技術をグループごと復習する。
4	基本的介護技術の復習(個別演習)	各介護技術をグループごと復習する。
5	基本的介護技術の復習(個別演習)	各介護技術をグループごと復習する。
6	基本的介護技術の復習(個別演習)	各介護技術をグループごと復習する。
7	自立に向けた入浴の介助	入浴の意義・目的や、入浴介助について学ぶ。
8		清拭の意義・目的や、介助方法を学ぶ。
9	基本的介護技術の復習(個別演習)	各介護技術をグループごと復習する。
10	第3期実習を終えての介護技術の振り返り	第3期実習先での技術方法の情報交換。
11	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
12	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
13	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
14	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。

15	まとめ レポート	1年次からの生活支援技術(介護)のまとめレポート。
----	----------	---------------------------

シラバスデータ		
科目名	レクリエーション論	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	1 レクリエーションの手段と主旨を理解する 2 レクリエーション支援の目的と方法を理解する 3 レクリエーション・インストラクターの役割を理解する
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	「レクリエーションの概論」「楽しさと心の健康作りの理論」「レクリエーションの支援理論」「レクリエーション支援のプログラム」を、それぞれの学科の特性に合わせた理解。レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組みと、その仕組みを根拠とした支援。ライフステージごとの心の元気作りとともに、地域とのきずな作り。信頼関係が築かれる心理的な仕組みと、コミュニケーション技術。自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開と、動機付けの心理的仕組みの理解。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	1 レクリエーションの意義と目的、インストラクターとしての姿勢と役割を理解する。 2 レクリエーションにおけるリスクマネジメントを踏まえた視点を養い、プログラムの立案ができる
授業担当者	和久田 一夫	
使用テキスト 参考文献	随時プリント配布	
評価方法	授業態度、出席率、課題提出、試験の総合、評価	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業・実践のガイダンス	授業概要について。
2	レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの役割とは	レクリエーション支援と、レクリエーション・インストラクターのかかわりについて。
3	楽しさを通じた心の元気づくり、対象者の心理面への理解	介護者と対象者のかかわり、心理面への働きかけについて。
4	活動そのものの楽しさを感じる こころの仕組み、こころの仕組みを根拠とした支援の在り方	介護者と対象者のかかわり、心理面への働きかけについて。活動内容例をもとに理解。
5	ライフステージに応じたこころの元気づくり	対象者に合わせたレクリエーションの違いについて。
6	子ども、高齢者、障害者を支える地域の絆とレクリエーション	レクリエーションの地域領域・地域のコミュニティ推進について。
7	対象者との信頼関係の構築とホスピタリティ	レクリエーションにおける信頼関係構築の心得について。
8	レクリエーション支援におけるコミュニケーション技術	レクリエーション支援におけるコミュニケーション技術について。
9	レクリエーション活動を通じた良質な集団作りと、集団内でのコミュニケーションの促進	集団でのレクリエーションについて。
10	自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ支援のための、やる気が生じるこころの仕組み	やる気に応じたスプレッドについて。
11	成功体験に導く支援と、成功体験を支え合う対象者同士のかかわり合い	成功体験に導く支援によって、対象者にある効果について。
12	支援計画書の考え方、作成	2年次に向け、支援計画について学ぶ。
13	事業の展開(魅力ある行事を考える)	レクリエーション事業について。
14	事業を展開する(行事をつくるプロセス)	レクリエーション事業について。

15	まとめ・試験	レクリエーション論のまとめ・後期試験の実施。
----	--------	------------------------

シラバスデータ		
科目名	レクリエーション援助活動法	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	高齢化社会の中で、人間らしく人生を全うするとは、生活支援とはどのようなことかの理解
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	レクリエーション基礎理論及び人間の尊厳とは何かの援助論・演習を基本とする
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	人間として、人生を全うするための明日につながる楽しみとはなんなのかの理解
授業担当者	和久田 一夫	
使用テキスト 参考文献	レクリエーション活動援助法(中央法規)福祉レクリエーション援助の方法(中央法規)福祉レクリエーション総論(中央法規)福祉レクリエーション援助の実際(中央法規)福祉施設におけるレクリエーション援助のあり方	
評価方法	援助演習実技評価 筆記試験 レクリエーション援助案評価	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	レクリエーション基礎理論	レクリエーションが生活全般の援助・支援の視点が必要であるというこの理解。
2	福祉レクリエーション基礎理論	福祉レクリエーション支援の特徴の理解。
3	コミュニケーションワークとホスピタリティーの理解	もてなしの意識を持ちながら、参加者の立場に立って対応することの理解。
4	レクリエーション援助の理念	レクリエーションが参加者にもたらすものの理解。
5	レクリエーション財の理解	レクリエーション財に必要な知識の習得。
6	アレンジ法の理解	レクリエーション財に必要な知識の習得。さらにアレンジの仕方をフォロー。
7	対象者の生活及び心理的欲求理解	人間の心理について。
8	ICFとレクリエーションの理解	ICF理論の裏付けのレクリエーション支援について。
9	生活自立を目指したりハビリ指向レクリエーション援助の理解	レクリエーションとリハビリテーションのつながりについて。
10	レクリエーション援助プロセス	レクリエーション援助プロセスについて。
11	尊厳とレクリエーション援助の実際	尊厳とレクリエーション援助の実際について。
12	事業の企画・運営の基礎	事業の企画・運営の基礎について理解し、実施に活かす。
13	安全と評価	安全と評価の項目について理解。
14	高齢者施設におけるレクリエーション援助のあり方	高齢者に対するレクリエーション援助方法の理解。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	レクリエーション援助案作成	実施計画案作成。
16	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
17	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
18	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
19	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
20	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
21	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
22	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
23	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
24	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
25	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
26	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
27	レクリエーション援助演習総括	レクリエーション援助演習総括
28	レクリエーション援助Q&A	レクリエーション援助実践を終えての質疑応答。
29	コミュニケーションワークQ&A	レクリエーション援助実践を終えての質疑応答。
30	筆記試験	前期試験の実施

シラバスデータ		
科目名	介護過程 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護過程の意義と基礎的理解を学ぶ。介護計画の意義を考え、個性・尊厳・倫理に基づいた介護過程の展開ができるよう、基本的な介護過程の構成、ICFに対する理解を深める。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	各教科で学んだ知識や技法、技術を統合し、個別の生活課題に向かい合える能力を養う。個別のニーズ、課題を明確化し、潜在能力を引き出すためのアセスメントを行い、自立支援に沿った介護計画の在り方について理解を深める。
授業回数	45回	
授業形態	講義・演習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	6単位	アセスメント、立案、実施、評価の展開を理解し、多職種協働によるチームアプローチの重要性を理解する。介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、来年度の介護計画実習への能力が養われる。
授業担当者	石田 麗	
使用テキスト 参考文献	中央法規 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版 ・ 適宜必要資料配布	
評価方法	出席率・授業態度・課題内容・試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバスをもって、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であることと、専門的知識・技術をもって行うことを理解する。
2	展開法・ICF・情報分類について	・展開法についての一連の流れ(アセスメント～評価)について理解し習得する。
3		・ICFの概念を取り入れ、利用者の全体像を捉える技術を習得する。
4		・情報分類をICFを用いて行えるようになる。自立支援につながるような情報の統合化が行える技術を習得する。
5	ニーズとデマンドの理解・事例演習	・ニーズとデマンドの違いを理解する。
6		・事例を用いて、介護福祉士が利用者のデマンドとどのように向かい合うかを理解する。
7	ストレングスの視点の理解・事例演習	・ストレングスの視点について理解する。
8		・事例を用いて利用者のストレングスへの視点の向け方を習得する。
9	ケアプランと介護計画の違いの理解・事例演習	・同一人物のケアプランと介護計画を比較し違いを理解する。
10	生活課題のとらえ方と理解・事例演習	・アセスメントシート2の活用法を学ぶ。
11		・事例を用いてアセスメントシート2が使えるようになる。
12	高齢者の介護計画の理解・事例演習	・高齢者の事例(計画まで作成されているもの)の理解(グループワーク)
13		・事例高齢者の課題の明確化(アセスメントシート2の活用)を行う(グループワーク)
14		・意見交換

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	障害者の介護計画の理解・事例演習	・障害者の事例(計画まで作成されているもの)の理解(グループワーク)
16	障害者の介護計画の理解・事例演習	・事例障害者の課題の明確化(アセスメントシート2の活用)を行う(グループワーク)
17		・意見交換
18	施設入所者にとっての介護計画	・各種別施設入所者のサービス利用目的の明確化
19		・入所利用者事例の展開(グループワーク)
20	在宅生活者にとっての介護計画	・ケアプランと各専門職個別支援計画との連動について
21		・在宅生活者事例の展開(グループワーク)
22	展開の実際	・事例を用いてアセスメントから計画立案を行う。(個人ワーク)
23		・ペアワーク(アセスメントシート1～3を交換し評価し合う)
24	アセスメントシートと介護計画書の理解・事例演習	・本学アセスメントシートと介護計画書を用いて事例展開を行う。(個人ワーク)
25		・個人ワークを持ちより意見交換を行いグループで1つの展開結果を出す。
26		・発表
27	情報の整理・分析の実際・事例演習	・情報処理、情報淘汰のありかたについてグループワーク
28		・事例検討(グループワーク)
29		・発表・評価
30	まとめ	2コマ～30コマの振り返り、まとめ
31	事例演習1	・3コマで1つの事例演習を行う
32		
33		
34		・1コマで個人ワークで情報分析、整理
35		・2コマでグループワークで個人ワークの共有
36		
37		・1コマで介護計画立案
38		・3コマで発表・提出

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
39		2コマで発表・提出
40	事例演習2	・2コマで1つの事例演習を行う
41	事例演習2	・2コマで1つの事例演習を行う
42		・1コマで個人ワークで情報分析、整理
43		・1コマグループワークで個人ワークの共有
44		・1コマ介護計画立案
45		・1コマ発表・提出

シラバスデータ		
科目名	介護過程Ⅱ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護過程の展開の理解ができる。知識や技術を統合し、ニーズを捉える視点を養う。具体的な事例から、情報収集の展開、介護過程の実践的な展開を行い、評価・再アセスメントの重要性を考える。介護過程とチームアプローチを事例展開から学ぶ。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	利用者を主体とする生活活動の展開方法であることを意識し、介護職員の専門的知識・技術をもって個別支援につなげることのできる手法を身につける。実際に介護過程の展開が行える能力を養い、自立支援に沿った内容で立案することができるようになる。
授業回数	30回	
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	利用者理解を図り、情報収集を行い、分析・解釈に基づき介護内容や方法を計画できるようになる。学んだ知識や技術を統合させ、応用させながら個人に適した計画が立案できるようになる。
授業担当者	加藤 浩和	
使用テキスト 参考文献	新 介護福祉士養成講座 第3版 9 介護過程	
評価方法	出席率、授業態度、課題、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護過程Ⅰ復習	介護過程の道筋の理解
2		ケアプランと介護計画の違いについての理解
3	アセスメントの実際	第2期実習における情報収集のまとめ(個人ワーク)
4		まとめの発表・評価・リストアップ
5	事例作成	第2期実習アセスメントから事例作成
6	作成事例検討1	・個人ワークで情報分析から介護計画立案
7		・グループ内共有・評価
8		・再検討・提出
9	作成事例検討2	・個人ワークで情報分析から介護計画立案
10		・グループ内共有・評価
11		・再検討・提出
12	作成事例検討3	・個人ワークで情報分析から介護計画立案
13		・グループ内共有・評価
14		・再検討・提出

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	作成事例検討4	・個人ワークで情報分析から介護計画立案
16	作成事例検討4	・グループ内共有・評価
17		・再検討・提出
18	介護過程展開に向けて	評価についての理解・実習使用書式の説明
19	第3期実習に向けて	まとめ
20	振り返り	第3期実習における介護計画振り返り
21	介護過程の展開の見直し	再立案(見直し)
22		
23		
24	第4期実習準備	第3期の反省点からの課題の明確化
25		希望対象者象の明確化
26		意見交換
27		必要教科、必要資料準備
28	国試対策	国試対策(過去問・対策授業)
29		
30	まとめ	振り返り(介護過程とは・・・レポート作成)

シラバスデータ		
科目名	介護総合演習 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護実習を行ううえでの介護福祉士としての心構え、社会人としてのマナーを理解し、利用者の個性を尊重した介護実践に発展できる能力を養う。 知識と技術の統合 を目指す。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	尊厳や、自立、権利や価値、生活状況を持っている利用者。学内での学びを統合し、実際の場面に適応できる柔軟性や、応用力、判断力が求められると同時に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力を身につけられるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合する必要性を理解し、介護福祉士の在り方について理解できるようになる。
授業担当者	隈本つばさ 山加藤 田 英介 浩和	
使用テキスト 参考文献	中央法規 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習	
評価方法	・出席率・授業態度・提出物・実習評価	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	介護実習 I について。グループワーク「介護実習 I で習得したいもの」
2	実習準備	個人票・目標・事前学習、レポート作成
3		
4		
5		
6	事前学習	コミュニケーション技術について
7	振り返り	振り返りシートを用いてグループワーク
8	実習準備	個人票・目標・事前学習、レポート作成
9		
10		
11		
12	事前学習	生活支援技術の実践について
13	振り返り	振り返りシートを用いてグループワーク
14	まとめ	介護福祉士のあり方について グループワーク 発表

シラバスデータ		
科目名	介護総合演習Ⅱ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質や課題把握等、総合的対応能力を習得できる。客観的な事実の必要性を理解し、適切な記録方法を習得する。 介護実践の科学的探究 を目指す。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	実習との組み合わせにより、個別の到達目標を見据えた総合的な学習。
授業回数	45回	
授業形態	演習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	3単位	技術・知識を介護実践に応用でき、自立支援の観点から介護過程の展開が図れる。それぞれのテーマに沿った研究的な考察ができる。介護実習Ⅰを振り返り、自己の課題や学習内容を言語化・明確化できる。ケアスタディ発表会に向けた業者・介護福祉学科との打ち合わせ等の共同作業を、学生主体で行い、介護分野の学習の集大成とする。
授業担当者	隈本つばさ 田 英介 浩和 山加藤	
使用テキスト 参考文献	随時プリント配布	
評価方法		
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	実習概要	実習Ⅱ 目的・意義、第3期実習先の決定
2	書類準備	第3期実習準備(個人票、評価表、出席票)
3	書類準備	第3期実習準備(個人票、評価表、出席票)
4	振り返り	実習Ⅰでの経験を踏まえた専門職としての役割・職業倫理、対象者様を具体的に挙げる
5	振り返り	実習Ⅰでの経験を踏まえた専門職としての役割・職業倫理、対象者様を具体的に挙げる
6	記録	実習Ⅱに向けての心構え、実習の進め方(記録用紙の配布)
7	記録	実習Ⅱに向けての心構え、実習の進め方(記録用紙の配布)
8	記録	記録の必要性・重要性、プロセスレコードの再学習
9	記録	記録の必要性・重要性、プロセスレコードの再学習
10	記録	観察の視点、実習記録の書き方、実習中の留意点
11	壮行会	第3期実習に向けての説明会(総合福祉学科と合同授業)、壮行会
12	実習概要	第4期実習先の決定、実習準備(個人票、評価表、出席票)
13	個別面談	第3実習での評価に対する個別面談
14	振り返り	第3期実習の振り返り、報告のまとめ

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	振り返り	第3期実習の報告会
16	振り返り	介護過程の意義の再確認、3期実習で困ったことなどグループワーク
17	振り返り	第3実習を基に、自身の行ったケースについての振り返り
18	振り返り	第3実習を基に、自身の行ったケースについての振り返り
19	記録	第4期実習に向けての心構え、実習の進め方(記録用紙の配布)
20	記録	第4期実習での対象者様についての事前学習
21	記録	第4期実習での対象者様についての事前学習
22	報告会	第4期実習の振り返り、まとめと報告会
23	報告会	第4期実習の振り返り、まとめと報告会
24	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表会に向け、クラス内での役割分担を話し合う。研究課題を確定と指導教員の決定、必要文献などの準備を開始する。
25	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
26	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
27	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
28	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
29	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
30	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
31	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
32	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
33	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
34	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
35	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
36	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
37	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
38	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
39	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
40	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
41	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
42	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
43	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
44	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
45	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会

シラバスデータ		
科目名	介護実習 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	さまざまな生活の場における個人の生活を理解したうえで、個別ケアを考え、コミュニケーションの実施、他職種協働を通じ介護福祉士としての役割について理解する。地域における生活支援の実践を通して学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	1. 多様な介護現場による見学・観察実習をする。 2. 基本的なコミュニケーション、介護技術を見学・補助・実践する。
授業回数	15日間	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	3単位	1. 各施設の理念・特徴、機能、役割を知る 2. 利用者の生活の実際を理解する 3. 基本的なコミュニケーション技法を理解する 4. 基本的な介護技術を理解する 5. 介護現場における職種と役割を理解する
授業担当者	隈本つばさ 田 英介 浩和 山加藤	
使用テキスト 参考文献		
評価方法	実習評価表にもとに事前事後指導・巡回指導、実習先の評価など総合的に判断する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
	介護現場実習	<p>1. 第1期実習(9月)下記の施設1日1～2ヶ所の組み合わせで5日間実習をする 実習施設の理念、特色、業務を理解する 介護場面におけるコミュニケーション、介護技術を見学・補助する 利用者とのコミュニケーションを図る 実習先 (1) 介護老人福祉施設・介護老人福祉施設(ユニット) (2) 介護老人保健施設 (3) ケアハウス (4) サテライト型居住施設 (5) 認知症対応型共同生活介護 (6) 障害者支援施設 (7) 救護施設</p> <p>2. 第2期実習(1月)下記の施設1ヶ所にて10日間の施設実習をする 実習施設の理念、特色、業務を理解する 利用者を支える職種と連携場面に見学・参加する 介護場面におけるコミュニケーション、介護技術を見学・補助・実践と段階を経て行う 利用者とのコミュニケーションを深め、利用者に応じた介護を展開する 実習先 (1) 介護老人福祉施設 (2) 介護老人保健施設 (3) 障害者支援施設 (4) 救護施設</p>

シラバスデータ		
科目名	介護実習Ⅱ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護過程の実践的展開を行うために個々の生活レベルや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学習とする。自己の技術・知識・態度の振り返り、人間と介護の本質を認識・追求しながらチームの一員として介護を展開する能力を養う。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	基本的なコミュニケーション、介護技術を補助・実践する。利用者の生活習慣や価値観を把握し、介護計画の立案・実践・評価を学ぶ。夜勤・レクリエーションを実施する。多職種と連携して介護を展開する。介護過程の実践的展開ができる。
授業回数	45日間	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	9単位	
授業担当者	隈本つばさ 山加藤 田 英介 浩和	個人理解のもと介護計画の立案・実施・評価ができる。基本的なコミュニケーション技法を展開できる。基本的な介護技術を展開できる。介護福祉士としての介護観を確立できる。
使用テキスト 参考文献	全教科テキスト	
評価方法	実習態度、介護技術、資質・適性	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
第3期実習	利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学習とする。	第3期実習(6月)下記の施設1ヶ所にて24日間の施設実習をする。 実習施設の理念、特色、業務を理解する。 介護現場におけるコミュニケーション、介護技術を利用者に応じ補助・実践行う。 担当利用者との関係づくりを図り、介護過程を展開する。 レクリエーションの実施をする。 (1)介護老人福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)障害者自立支援施設 (4)救護施設
第4期実習	利用者の課題を明確にするため他職種との連携のもと、具体的な介護サービスの提供を総合的視野で考え、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、評価する過程を養う。	第4期実習(10月)下記の施設1ヶ所にて20日間の施設実習をする。 実習施設の理念、特色、業務を理解する。 介護現場におけるコミュニケーション、介護技術を利用者に応じ補助・実践行う。 担当利用者との関係づくりを図り、介護過程を展開する。 レクリエーションの実施をする。 (1)介護老人福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)障害者自立支援施設 (4)救護施設

シラバスデータ		
科目名	発達と老化の理解 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	人の成長と発達や老年期における発達課題 老年期にある人について身体的・心理的・社会的側面を含め、多面的に理解できるような内容
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	① 人の成長と発達や老年期における発達課題を理解できる ② 老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する
授業担当者	本多祥子	
使用テキスト 参考文献	[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉全書(メジカルフレンド社) 第9巻 発達と老化の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	人間の成長と発達 ①	人間の成長と発達の基礎的理解。
2	人間の成長と発達 ②	ライフサイクルとファミリーサイクル
3	人間の成長と発達 ③	ライフサイクルと発達課題
4	人間の成長と発達 ④	乳幼児期のころとからだ
5	人間の成長と発達 ⑤	児童期のころとからだ
6	人間の成長と発達 ⑥	青年期のころとからだ
7	人間の成長と発達 ⑦	成人期のころとからだ
8	社会からみた 老年期①	老化に伴うころとからだの変化と生活
9	社会からみた 老年期②	今日の老年期の社会的定義
10	社会からみた 老年期③	今日の老年観
11	ライフサイクル のなかの老年期 ①	ライフサイクルのなかの老年期とはどのような時期か
12	ライフサイクル のなかの老年期 ②	いまの高齢者が生きてきた時代とは
13	老年期の発達課題 ①	人格と尊厳、老いの価値
14	老年期の発達課題 ②	喪失体験

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	老年期の発達課題 ③	セクシュアリティについて

シラバスデータ		
科目名	発達と老化の理解Ⅱ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	老年期にある人について身体的・心理的・社会的側面を含め、多面的に理解できるような内容 「老い」や「死」を肯定的にみることができるようにとの意図の一環として、老年観について考える
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①「老い」や「死」を肯定的にみることができ、老年観について考えることができる ②老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する
授業担当者	本多祥子	
使用テキスト 参考文献	最新 介護福祉士全書(メジカルフレンド社) 第9巻 発達と老化の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	心身機能の老化と日常生活への影響 ①	心身機能の老化の特徴
2	心身機能の老化と日常生活への影響 ②	身体的機能の老化
3	心身機能の老化と日常生活への影響 ③	知的・認知機能の老化
4	心身機能の老化と日常生活への影響 ④	精神的機能の老化
5	心身機能の老化と日常生活への影響 ⑤	心身機能の老化の日常生活への影響
6	心身機能の老化と日常生活への影響 ⑥	心身機能の老化を遅らせるのに 何が効果的か
7	高齢者に多い症状・病気①	高齢者に多い症状と日常生活での留意点
8	高齢者に多い症状・病気②	高齢者に多い病気と日常生活での留意点
9	高齢者に多い症状・病気③	病気をもつ高齢者をみとときの介護福祉士と保健医療職との連携
10	高齢者の心理①	老化を受け止める高齢者の気持ち
11	高齢者の心理②	社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち
12	高齢者の心理③	障害を受け止める高齢者の気持ち
13	高齢者の心理④	友人との別れを受け止める高齢者の気持ち
14	高齢者の心理⑤	経済的不安を抱える高齢者の気持ち

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	高齢者の心理⑥	その他

シラバスデータ		
科目名	認知症の理解	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科 総合福祉学科	認知症の医学的側面、種類、特徴、介護方法などの認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人の理解に結びつける。認知症を取り巻く環境、チームアプローチ、家族支援などの視点を養う。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	認知症の定義、認知症ケアの歴史、視点の変遷、認知症症状と原因疾患、社会的・心理的環境、生活に与える影響や環境の及ぼす力、認知症の人を支えるには、地域資源、多職種協働、介護家族ケア
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① なぜ認知症の人について学ぶ必要があるのか理解できる ② 医学面、心理面での認知症の人の理解を深めることができる ③ 本人本位の視点の重要性が理解できる
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座(中央法規) 第12巻 認知症の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	認知症を取り巻く状況	認知症とは何か 認知症を取り巻く状況
2	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの歴史
3	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点
4	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の人の行動・心理症状
5	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解
6	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の原因疾患
7	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の診断と治療
8	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の予防
9	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の人の心理的理解
10	認知症の人の体験の理解	認知症の人の介護をしていくために
11	認知症の人の生活の理解	認知機能の変化が生活に及ぼす影響
12	認知症の人の生活の理解	環境の力
13	認知症の人の生活の理解	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア
14	認知症の人の生活の理解	若年性認知症の人の生活の理解と支援

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	認知症の人に対する介護	認知症の人へのかかわりの基本
16	認知症の人に対する介護	認知症への気づき
17	認知症の人に対する介護	認知症の進行に応じた介護
18	認知症の人に対する介護	人が生きることを支えるということ
19	地域の力を活かす	連携と協働 地域におけるサポート体制
20	地域の力を活かす	チームアプローチ
21	家族の力を活かす	介護者自身の体験
22	家族の力を活かす	家族への支援
23	家族の力を活かす	家族へのエンパワメント 家族会と介護教室
24	認知症に関する制度・関係機関など	認知所対策と介護保険制度
25	認知症に関する制度・関係機関など	その他の施策
26	応用授業	事例検討
27	応用授業	事例検討
28	応用授業	事例検討
29	応用授業	事例検討
30	応用授業	事例検討

シラバスデータ		
科目名	障害の理解 I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	① 障害のある人の基礎的理解ができる。 ② 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解ができる。 ③ 障害のある人の体験を理解し、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援ができる。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	身体障害、知的障害、視覚障害、聴覚障害、精神障害等の障害形態別に伴う障害の理解と対処する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・障害の医学的側面を理解することで、基本的知識および(専門)用語が身につけられている。 ・障害の特性を理解することで、障害にあった対処ができる。 ・家族、地域、保健医療従事者との情報交換やチームアプローチの方法を知ることができる。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 13障害の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	自己紹介 障害とは何か 障害の概念
2	イメージする	老人・障害者の心理(VTR)
3	法的定義	わが国における障害者の法的定義
4	基本理念	障害者福祉の基本理念
5	視覚障害	視覚障害のある人の生活
6	視覚障害	視覚障害のある人の生活
7	聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活
8	聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活
9	肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活
10	肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活
11	内部障害	内部障害のある人の生活
12	内部障害	内部障害のある人の生活
13	内部障害	内部障害のある人の生活
14	内部障害	内部障害のある人の生活

15	試験	後期試験の実施
----	----	---------

シラバスデータ		
科目名	障害の理解Ⅱ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	① 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 ② 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 ③ 連携と協働 を学ぶ。 ④ 家族への支援 を学ぶ。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	様々な障害形態別に伴う障害の理解と、対処するための心理や身体機能の知識を習得するため、参考図書を使用した講義やビデオ(画像)による学習を行う。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・障害の医学的側面を理解することで、基本的知識および(専門)用語が身につけられている。 ・障害の特性を理解することで、障害にあった対処ができる。 ・家族、地域、保健医療従事者との情報交換やチームアプローチの方法を知ることができる。 ・国家試験に合格するレベルの知識を習得する。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 13障害の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	高次機能障害	高次機能障害のある人の生活
2	発達障害	発達障害のある人の生活
3	重症心身障害	重症心身障害のある人の生活
4	内部障害	内部障害のある人の生活(心臓機能)
5	内部障害	内部障害のある人の生活(腎臓機能)
6	内部障害	内部障害のある人の生活(呼吸機能)
7	内部障害	内部障害のある人の生活(膀胱・直腸機能)
8	内部障害	内部障害のある人の生活(HIV)
9	内部障害	内部障害のある人の生活(肝臓機能)
10	難病	難病のある人の生活
11	基本的視点	障害のある人に対する介護の基本的視点
12	基本的視点	障害のある人に対する介護の基本的視点
13	家族への支援	家族への支援
14	連携と協働	連携と協働

15	試験	前期試験の実施
----	----	---------

シラバスデータ		
科目名	からだのしくみ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	・介護を行う上で心身機能と身体構造は、当然必要で理解しておかなければならない知識である。利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、より充実した介護サービスを提供できるよう知識を深める。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・介護の実践に沿ったところとからだのしくみを理解する。また、ビデオ等の教材を使用し、視覚的に理解できるようになる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・医療、福祉、介護現場に必要な専門(医学)用語が身についている。 ・人体の構造・働きを理解したうえで、根拠に基づくケアができる。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	メジカルフレンド 「ところとからだのしくみ」	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	生きているしくみの理解(おさらい)
2	医学の復習	生きているしくみの理解(おさらい)
3	医学の復習	生きているしくみの理解(おさらい)
4	身じたくに関連したところとからだのしくみ	基礎知識(身じたく行為の生理的意味など)
5	身じたくに関連したところとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす整容行動の影響(機能の低下・障害の原因およびその影響)環境
6	移動に関連したところとからだのしくみ	基礎知識(移動行為の生理的意味、重心、バランス、良肢位など)
7	移動に関連したところとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす移動の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
8	食事に関連したところとからだのしくみ	基礎知識(からだをつくる栄養素、1日に必要な水分量・栄養量など)
9	食事に関連したところとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす食事の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
10	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	基礎知識(清潔保持の生理的意味など)・機能の低下・障害が及ぼす入浴の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
11	排泄に関連したところとからだのしくみ	基礎知識・機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
12	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	基礎知識・機能の低下・障害の原因およびその影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
13	死にゆく人のところとからだのしくみ	「死」の捉え方 ・終末期から危篤、死亡時のからだの理解 ・「死」に対する心の理解 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ
14	国家試験対策	国家試験対策

15	試験	前期試験の実施
----	----	---------

シラバスデータ		
科目名	医学一般	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科 総合福祉学科	介護を行う上で心身機能と身体構造は、理解しておかなければならない知識である。 利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、より充実した介護サービスを提供できるよう知識を深める。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	介護の実践に沿ったところからだのしくみを理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	医療、福祉、介護現場に必要な専門(医学)用語が身についている。 人体の構造・働きを理解したうえで、根拠に基づくケアができる。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	公益財団法人 介護労働安定センター「介護のための医学の基礎」	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	アンケート VTR
2	人体の構造と働き	人体の区分 解剖学用語
3	人体の構造と働き	調節系 脳と脊髄 主な疾患 対処方法
4	人体の構造と働き	観察 バイタルサイン
5	人体の構造と働き	呼吸器系 主な疾患 対処方法
6	人体の構造と働き	循環器系 主な疾患 対処方法
7	人体の構造と働き	消化器系 主な疾患 対処方法
8	人体の構造と働き	代謝系 主な疾患 対処方法
9	人体の構造と働き	排泄系 主な疾患 対処方法
10	人体の構造と働き	骨格系 筋系 主な疾患 対処方法
11	人体の構造と働き	感覚器系 主な疾患 対処方法
12	人体の構造と働き	生殖器系 主な疾患 対処方法
13	人体の構造と働き	免疫系 主な疾患 対処方法
14	主な疾患の概要	呼吸器疾患・循環器疾患 腎、泌尿器疾患・消化器疾患 等

15	試験	前期試験の実施
----	----	---------

シラバスデータ		
科目名	こころのしくみ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護実践に必要な知識という観点から、こころのしくみについての知識を養う。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	介護の実践に沿ったこころとからだのしくみを理解する。また、ビデオ等の教材を使用し、視覚的に理解できるようになる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①こころのしくみの基礎的理解を習得する。 ②介護技術の根拠となる人の機能やこころのしくみを理解し、それに伴う心理的側面への配慮について理解する。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	メジカルフレンド 「こころとからだのしくみ」	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	「こころと脳のつながり」・脳のしくみの基礎
2	こころを働かせるしくみの理解	感覚・知覚・認知のしくみ
3	こころを働かせるしくみの理解	学習と動機づけ
4	こころを働かせるしくみの理解	欲求と感情のしくみ
5	こころを働かせるしくみの理解	自分を守るこころのしくみ
6	こころを働かせるしくみの理解	こころの発達と自己概念
7	心の傷を受けるとどうなるか	ストレス関連障害
8	心の傷を受けるとどうなるか	PTSDを深堀する
9	心の傷を受けるとどうなるか	適応障害
10	死にゆく人のこころのしくみ	死に対する恐怖と不安 死を受容する段階 人生の最終段階のケアに関連したこころのしくみ
11	死にゆく人のこころのしくみ	家族が死を受容する段階 家族支援 ホスピス
12	メンタルヘルス	健康な人格について
13	メンタルヘルス	統合失調症について
14	メンタルヘルス	こころの治療と予防について

15	試験	後期試験の実施
----	----	---------

シラバスデータ		
科目名	心理学	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	心理学の理論を理解し、心理的支援力を高める。 更に、支援における支援者と被支援者の相互作用を理解し、福祉における今日的課題への対応力をつける。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	心理学の発展経過、発達と学習の関係、アセスメント手法を学び、自己理解を深め、福祉的支援者として対応について深める。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の理論、特に心の発達について理解する。 ・アセスメント手法、福祉現場での活用方法を理解する。 ・福祉における今日的課題を理解し、対応方法を身に付ける。
授業担当者	土屋 廣人	
使用テキスト 参考文献	社会福祉学習双書 第11巻 心理学 全国社会福祉協議会	
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	心理学を学ぶ理由
2	自己理解 I	自己理解と他者理解
3	心理学歴史	現代心理学の潮流
4	脳について①	脳の構造
5	脳について②	知覚と認知
6	脳について③	発達と学習
7	脳について④	知能とは
8	発達課題とは	愛着について
9	人と環境	アセスメントについて
10	観察について	行動観察の手法
11	自己理解 II	性格検査
12	ケアリングとは	ケアリングとカウンセリングについて
13	事例問題①	今日的課題①
14	事例問題②	今日的課題②

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	振り返り・まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		
科目名	医療的ケア I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	福祉領域の専門家である介護福祉士が、医療分野の理念や倫理を理解し、喀痰吸引・経管栄養についての 医療的ケア実施の基礎的知識 を習得する。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	医療的ケア、安全な療養生活(救急蘇生法)、清潔保持と感染予防、健康状態の把握、 喀痰吸引概論、喀痰吸引実施手順解説、経管栄養概論、経管栄養実施手順解説。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① 医療的ケアとはどういうものか、また介護福祉士が医療的ケアを行うようになった背景が理解できる。 ② 喀痰吸引・経管栄養に関する基礎的知識、実施手順と留意点について理解することができる。
授業担当者	三嶋 秀子	
実務者教員	○	病院における看護師・看護師長としての実務経験
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 医療的ケア(中央法規)	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	医療的ケア	医療的ケアとは。医行為について、喀痰吸引等制度
2	医療的ケア	医療的ケアと喀痰吸引等の背景、その他の制度
3	安全な療養生活	ヒヤリハット、アクシデント
4	清潔保持と感染予防	感染予防・職員の感染予防・療養環境の清潔、消毒法
5	清潔保持と感染予防	滅菌と消毒
6	健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態を知る項目 バイタルサイン
7	健康状態の把握	バイタルサイン、急変状態について
8	安全な療養生活	救急蘇生
9	安全な療養生活	救急蘇生
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	いつもと違う呼吸状態
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引とは
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の理解
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸器系の感染と予防
16	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	急変・事故発生時の対応と事前対策
18	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき
19	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収とよくある消化器の症状
20	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	注入する内容に関する知識
21	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養について
22	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養を受ける利用者や家族の理解
23	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
24	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	急変・事故発生時の対応と事前対策
25	実施手順概要	手順の解説
26	実施手順概要	手順の解説
27	実施手順概要	手順の解説
28	実施手順概要	手順の解説
29	実施手順概要	手順の解説
30	実施手順概要	手順の解説

シラバスデータ		
科目名	医療的ケアⅡ	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生の実施手順、留意点を理解し、安心・安全・安楽に基づいた技術を身につける。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	喀痰吸引実施手順解説、経管栄養実施手順解説
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①喀痰吸引・経管栄養についての概要、実施手順を理解することができる。 ②喀痰吸引・経管栄養についての正しい実施手順を理解し、施行することができる。
授業担当者	三嶋 秀子	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 別巻 医療的ケア(中央法規)	
評価方法	授業態度、基本研修・演習の評価票にて評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	吸引の技術と留意点
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	吸引の技術と留意点
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引にともなうケア・報告および記録
5	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
6	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点
7	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点
8	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養に必要なケア・報告および記録
9	演習	演習の手順・説明
10	演習	喀痰吸引
11	演習	
12	演習	
13	演習	経管栄養
14	演習	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	演習	

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	ビジネス実務	
年度	令和5年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	ビジネスとコミュニケーションの基本、仕事の実践とビジネスツール、社会常識、の分野を学び、職業人にとって必要な知識とスキルを総合的に身につける。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	文部科学省認定「ビジネス能力検定3級」の検定取得を目標とする。 「社会人常識マナー検定3級」の検定取得を目標とする。
授業担当者	伊藤 知圭子	
使用テキスト参考文献	日本能率協会マネジメントセンター 発行 文部科学省認定 「ビジネス能力検定3級公式テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター 発行 文部科学省認定 「ビジネス能力検定3級公式試験問題」 公益財団法人 全国経理教育協会 発行 「社会人常識マナー検定テキスト2・3級」	
評価方法	授業態度、出席状況および検定取得状況により評価する。	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会人としての自覚
2	組織と役割	会社組織の成り立ちを理解し、リーダーとフォロワーに必要なものを知る
3	社会の変化	多様な雇用形態を知り、変動する社会に対応する力を身につける
4	仕事と目標	目標が持つ意味、重要性を理解する
5	主体性と組織運営	社会の一員として、社会を支える当事者であることを自覚し、目的意識を持つ
6	幅広い社会常識	政治・経済や税金・社会保障に関連する基礎知識を身につける
7	日本語の意思伝達	ビジネスの基礎は日本語で、漢字の読み書きを再確認する
8	社会常識の知識	日常生活に浸透するカタカナ用語や欧文略語などのキーワードを身につける
9	ビジネス計算	ビジネスにおける計算力の重要性を理解する
10		分析力・思考力・応用力の重要性を理解し、数式を元に課題を解決する力を身につける
11	ビジネスにおけるコミュニケーション	意思疎通の重要性を理解し、良い人間関係のためのコミュニケーションを身につける
12	コミュニケーション力向上のポイント	第一印象の重要性を理解し、好感を持たれる立ち居振る舞いや挨拶・美しいお辞儀を身につける
13	敬語を使いこなす	尊敬語、丁寧語、謙譲語を使い分け、職場での言葉遣いを身につける
14	効果的に伝える	わかりやすい話し方と上手な聞き方を学ぶことで、好感を持たれる話し方を身につける
15	ビジネス文書の活用	ビジネス文書の種類と形式を学び、ビジネス文書の作成のポイントを理解する
16	ビジネス文書の活用	社内文書と社外文書の目的を理解する

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
17		演習を通して、ビジネス文書の書き方を身につける
18	分かりやすいグラフ	グラフの種類と作成のポイントを理解する
19	職場のマナー	組織の一員として、職場のマナーを理解する
20	心からもてなす	来客対応の重要性を理解し、基本手順を身につける
21	状況に応じた対応	面談約束ない来客に対応できる力や、訪問のマナーを身につける
22	電話対応	電話対応の重要性、特性、配慮、心構えを理解する
23	通信手段別の対応	FAXや携帯電話、状況に応じた電話対応を理解する
24	お祝いの気持ちを表す	人生の節目を祝う慶事のマナーを身につける
25	TPOやしきたりを踏まえる	弔事のマナー、病氣見舞いの思いやる気持ち、状況を踏まえつつ相手に気持ちを伝え方を理解する
26	受発信文書の適切な取扱い	文書類の受取や発送、特殊郵便物・大型郵便物・宅急便の扱いを身につける
27	職場環境を整える	オフィス環境と事務機器の取扱いを学ぶ
28	実りある話し合いのために	入念な下準備が会議を成功に導くため、そのポイントを理解する
29	情報を適切に管理する	文書類の保管、秘文書の取扱い、日程管理、押印の重要性を理解する
30	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		
科目名	就職指導	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	① 自分自身を客観的に知り、表現する方法を見つける。 ② 就職に必要な知識を養う。
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	就職活動は自分の仕事を中心とした人生(将来)を考え、設計する為の重要な役割を果たし、自己実現に向けた第一歩であることを理解させる。自己を知り、敵(企業などの就職先)を知って、いかに自分を高く売り込めるかを学ばせる。「講義」は与えられたものとして受け止めるのではなく、自分自身のものとして理解し実施していこうとする学習姿勢を重要視する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	本授業では、「就職」というゴールに加え、学生が「キャリア自律」について理解することを目標とする。
授業担当者	原木伴美	
使用テキスト 参考文献	社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック(自己理解編・社会理解編)、イラスト図解！就職ワークブック、就職成功へのステップ	
評価方法	授業態度、出席率、課題提出による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業オリエン	マズローの5段階説から『働く』ということのイメージ付けと、意味を理解する。 自分の将来像をマインドマップを使って書いてみよう。
2	キャリアについて理解しよう	キャリアプランを描くために、これまでの自分の人生と学校生活を振り返り、身に着けてきたことを理解しよう。
3	キャリアプランを立てよう	キャリアプランとは何かを理解し、前回の講義でまとめた内容をもとにキャリアプランシートを作ろう。
4	自己理解	他己分析、私の大切なもの探し等のワークシートを使って、自己理解を深めよう。
5	仕事理解	社会基礎力について理解し、自分の長所を活かせる仕事・職場とはどんなところかを理解しよう。
6	自己表現に向けて～自己PRと企業研究をまとめよう～	やりたいこととできることの区別をして、第4回めにまとめた自己理解シートをまとめよう。また、企業研究の方法を理解しよう。
7	自己表現に向けて～文章を書いてみよう～	履歴書の書き方を学ぼう。
8	自己表現に向けて～面接対策①～	履歴書作成、面接での立ち居振る舞いや受け答えの練習をしよう。
9	自己表現に向けて～面接対策②～	模擬面接練習をしよう。
10	自己表現に向けて～面接対策③～	面接の得意・不得意を理解して、対策を考えよう。
11	就職活動について	ジョブカードの作成を活用方法について学ぼう
12	グループワーク	社会人基礎力を身につける①～〇〇さんでどんな人？～
13	現場について学ぼう	介護現場におけるビジネスマナー
14	グループワーク	社会人基礎力を身につける①～コンセンサス実習「NASAゲーム」～

15	まとめ	社会に出るために必要なことは？
----	-----	-----------------

シラバスデータ		
科目名	ゼミナール(福祉研究) I	
年度	2023年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	職業とキャリアでは、働く意義や職業選択の考え方から職業人としての心構えを身につける。福祉研究においては、実施している介護が科学的根拠に裏づけられたものであるかを実証していくことの意義を考え、論拠と主張を持って他者にわかるよう論述する方法を学ぶ。
学年	1年 2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	今後職業人として活躍するために必要なスキルを身につけるため、職業とキャリア・福祉研究(ケーススタディ)に取り組む。
授業回数	90回	
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① 仕事の目的意義、職業人の概念を知り、職業人としての意識、姿勢を知る ② 職業と社会の関係、位置づけや役割を知り、組織や社会の一員としての責任を知る ③ 事例を通しその生活課程を社会的・文和的背景と関連させながら詳細に記述し、そこから介護のあり方、支援のあり方を学ぶことができる
授業担当者	隈本つばさ 山田英介 三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	「職業とキャリア」(一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団) 配布資料	
評価方法	授業態度、出席状況および試験の結果を総合して評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	職業とキャリア	職業とは何か、職業の意味
2	職業とキャリア	働くことの意義・目的、人生観と職業観
3	職業とキャリア	産業社会の発展と職業
4	職業とキャリア	職業の形態と種類、職業の分類 職業の形態と種類、職業と資格
5	職業とキャリア	職業の形態と種類 職業と会社・組織 職業選択と自分がめざす生き方、職業選択の理論
6	職業とキャリア	職業人としてのマインドとは、生活の自立と自律
7	職業とキャリア	誠実さ、思いやり、愛情、感謝 公平・公正、法令遵守、顧客・組織・社会への貢献
8	職業とキャリア	社会問題、情報社会、国際理解
9	職業とキャリア	少子高齢社会、労働環境、ワークライフバランス 日本の未来と私たち
10	職業とキャリア	職業人としてのマインドのまとめ
11	介護福祉の現場と ケーススタディ	ケーススタディの進め方
12	介護福祉の現場と ケーススタディ	ケーススタディの目的
13	介護福祉の現場と ケーススタディ	介護福祉士にとってのケーススタディ
14	介護福祉の現場と ケーススタディ	研究から学べること

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	ケーススタディの進め方	研究過程を理解する
16	ケーススタディの進め方	進め方
17	ケーススタディの進め方	論文を書く
18	介護過程と具体的なケーススタディ	実習現場において求められる介護過程
19	介護過程と具体的なケーススタディ	実際のケーススタディに学ぶ
20	魅せるためのケーススタディ	ケーススタディと文章表現
21	魅せるためのケーススタディ	ケーススタディと文章技法
22	魅せるためのケーススタディ	体裁をつくる
23	魅せるためのケーススタディ	発表について
24	魅せるためのケーススタディ	プレゼンテーションに求められるスキル
25	ケーススタディで身につくスキル	介護福祉士の仕事
26	ケーススタディで身につくスキル	ケーススタディでスキルアップ
27	発表準備	制作
28	発表準備	制作
29	発表準備	制作
30	発表	発表振り返り
31	国家試験対策	対策授業・模擬試験
32	国家試験対策	対策授業・模擬試験
33	国家試験対策	対策授業・模擬試験
34	国家試験対策	対策授業・模擬試験
35	国家試験対策	対策授業・模擬試験
36	国家試験対策	対策授業・模擬試験
37	国家試験対策	対策授業・模擬試験
38	国家試験対策	対策授業・模擬試験
39	国家試験対策	対策授業・模擬試験

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
40	国家試験対策	対策授業・模擬試験
41	国家試験対策	対策授業・模擬試験
42	国家試験対策	対策授業・模擬試験
43	国家試験対策	対策授業・模擬試験
44	国家試験対策	対策授業・模擬試験
45	国家試験対策	対策授業・模擬試験
46	国家試験対策	対策授業・模擬試験
47	国家試験対策	対策授業・模擬試験
48	国家試験対策	対策授業・模擬試験
49	国家試験対策	対策授業・模擬試験
50	国家試験対策	対策授業・模擬試験
51	国家試験対策	対策授業・模擬試験
52	国家試験対策	対策授業・模擬試験
53	国家試験対策	対策授業・模擬試験
54	国家試験対策	対策授業・模擬試験
55	国家試験対策	対策授業・模擬試験
56	国家試験対策	対策授業・模擬試験
57	国家試験対策	対策授業・模擬試験
58	国家試験対策	対策授業・模擬試験
59	国家試験対策	対策授業・模擬試験
60	国家試験対策	対策授業・模擬試験
61	国家試験対策	対策授業・模擬試験
62	国家試験対策	対策授業・模擬試験
63	国家試験対策	対策授業・模擬試験
64	国家試験対策	対策授業・模擬試験
65	国家試験対策	対策授業・模擬試験
66	国家試験対策	対策授業・模擬試験
67	国家試験対策	対策授業・模擬試験

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
68	国家試験対策	対策授業・模擬試験
69	国家試験対策	対策授業・模擬試験
70	国家試験対策	対策授業・模擬試験
71	国家試験対策	対策授業・模擬試験
72	国家試験対策	対策授業・模擬試験
73	国家試験対策	対策授業・模擬試験
74	国家試験対策	対策授業・模擬試験
75	国家試験対策	対策授業・模擬試験
76	国家試験対策	対策授業・模擬試験
77	国家試験対策	対策授業・模擬試験
78	国家試験対策	対策授業・模擬試験
79	国家試験対策	対策授業・模擬試験
80	国家試験対策	対策授業・模擬試験
81	国家試験対策	対策授業・模擬試験
82	国家試験対策	対策授業・模擬試験
83	国家試験対策	対策授業・模擬試験
84	国家試験対策	対策授業・模擬試験
85	国家試験対策	対策授業・模擬試験
86	国家試験対策	対策授業・模擬試験
87	国家試験対策	対策授業・模擬試験
88	国家試験対策	対策授業・模擬試験
89	国家試験対策	対策授業・模擬試験
90	国家試験対策	対策授業・模擬試験